

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 ○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「えみのこぼれる家庭・・・それが私のほこりです」の基本理念に基づき、ほおずき高砂テーマとして、「笑顔が素敵で思いやりある介護のプロに」を掲げている。地域から入居された方には今までの関係ができるだけ続くよう、散歩や行事等でなじみの方に出会える機会を設けている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者、職員、外来者、入居者、誰もが見える玄関に掲げており、毎朝時に唱和をしている。また、職員はテーマを実現するため、個々の目標管理のため、管理者とのマイチャレンジ面接を行い、レベルアップにもつなげている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	積極的に地域へ(自治会)の行事に参加し、地域の公民館で活動している方を迎えるなど、交流の機会を持つようにしている。日常の散歩や、挨拶、また運営推進会議を通して、理念や活動内容も報告し、理解を少しでもいただけるよう活動している。		
4 ○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	特にホーム周辺は通勤や、散歩などの際に隣近所の方とお会いすることが多いため、挨拶含め、高齢者介護に対して「大変な仕事やね。」など、ねぎらいの言葉もいただいている。年に2回溝掃除があり、職員も2名づつ参加している。自治会の回覧板などは、当施設も順番に回ってくるため近所づきあいは良く出来ていると思う。	○	新人職員が増えたため、近所づきあい、挨拶など話をしていきたい。
5 ○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも入会し、入居者をはじめ、職員も自治会の行事に参加している。(小学校で行われる餅つき大会や、保育園の行事、自治会の秋祭りでの屋台など)年2回の、溝掃除にも参加し、地域の一員としての意識を持って交流している。	○	老人会と、自治会が行っているいきいきサロンへの関わりを持てるよう、自治会長様とお話をしている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在「キャラバンメイト」が3名おり、「認知症サポーター講座」を中心に活動をしている。 また、運営推進会議では、自治会長様と市の包括職員の方から地域の高齢者の現状を聞く機会がある為、協力できる範囲で役立てることがあれば、検討している。		
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価について制度のアナウンスを家族様や、運営推進会議にて行った。結果についても全家族様に対して送付している。また、前回までの自己評価に関しては管理者、主任、計画作成担当者からのみの回答で作成したが、今回は全職員に1から5設問程度を職員の得意そうなものを振り分け全員参加型の自己評価を完成し、全職員の共通理解を深めることができた。	○	評価結果を今後の取り組みにしっかり組み込み、意義のある評価にしていきたいと思う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で評価についても公表している。以前よりサービス内容報告は行っていたが、新たに事故についての報告も加えた。なお参加者として入居者様を固定して参加していただいていたが、より開けた形を作るため、順番に参加していただくようにした。		
9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市や社会福祉協議会の協力もあり、今年度から「認知症サポーター養成講座」を市内に向けに実施予定である。これに関しては、市の介護保険課、市包括支援センター、他事業所の「キャラバンメイト」とも話し合う場を持ち、計画を進めているところである。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市で開催される「権利擁護」の講演会などに出席しているが、全職員にまでは浸透しておらず、施設内での研修開催について課題が残っている。	○	今年度内の研修計画には新人職員のスキルアップのため、より実践的な内容を計画しているため、以降の予定で早期の研修開催を検討したい。また施設外で権利擁護についての講演等、学ぶ機会があれば職員にも伝えていきたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については施設内での研修も行っているが、現場では、より細かく言葉遣いや、認知症高齢者の立場になって考えることを職員に対して、理解できるように教育している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に明記されており、個人情報の使用に関する同意書も含めて、入居者及び家族様にも説明し、理解をいただいた上で、署名をいただいている。また法改正などによって新たに同意書を得る場合、等についても十分に理解していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情相談窓口担当者を明記し、掲げている。また、契約書、重要説明事項にも記載し説明を行っている。玄関カウンターにご意見箱を設置し、苦情や意見をお聞きするよう新たにアンケート用紙を設置している。苦情相談窓口については改めて家族様に対してアナウンスを行った。(前回の評価にてお話いただいた部分)		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には入居者の近況や、日常生活の様子をお伝えしており、月1回発行のほおずき通信を郵送している。その中で行事報告、入居者様の写真、金銭出納、各担当職員よりお手紙を同封し、コミュニケーションを図っている。	○	今後の方向として家族様の参加を代表だけでなく、全家族様に声掛けしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、家族様代表より毎回ご意見をお聞きするようにしている。また、面会時にも家族様とのコミュニケーションを図り、意見を得やすい環境づくりを常に心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほおずきの目標管理の制度であるマイチャレンジにより、職員の役割と、管理者から期待すること及び要求することを明確にし、職員の目標を定めており、定期的に面談を行い、意見反映の機会づくりに努めている。また、毎月、各ユニットのケース会議や、全体のパートナー会議の場でも、事故・ヒヤリハット、職員のマナー、日常のケアなどについて意見を出し合い業務改善に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各ユニットは日中3名以上の体制で勤務シフトを組んでいるが、必要時は外出行事等のイベント、入居者様の状態によって、4名体制にするなど調整している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様との関わりを厚くする為、正職員採用を基本とし、異動は最小限に止めている。異動等が必要な場合は、最低1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者様との馴染みの関係を引き継ぎ、環境変化を最小限に止めるよう努めている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で階層別に、研修計画を立案し定期的に研修を行い、ホーム内ではOJTを中心とした研修も実施している。全職員を対象に、外部講師による講演会を定期的で開催することや、外部研修・勉強会の案内も行っている。また、資格取得のために必要な情報提供や、そのための勤務の調整を行い、ケアマネの対策講座や介護福祉士の実技指導等を行っている。合わせて、マイチャレンジで目標を明確にし、計画的に取得するサポートも行っている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域での連絡会や協会に所属し交流活動を行っており、定期的な勉強会を通じ、他法人のグループホームや特養等の管理者・職員との交流を行っている。職員へ協会主催の勉強会の案内をしている。運営推進会議においては、構成員として他法人施設と相互参加に取り組んでいる。隣接して運営している事業所へケアマネージャーの皆さんが訪問下さる機会も多く、地域の情報を得る機会も多い。また、同業他社との相互見学を行うなど、悩みの解消等や自己啓発に役立っている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>計画的に問題点等を共有する機会を設けており、管理者及び職員とマイチャレンジを実施し、いつでも発言しやすい雰囲気を作るよう心がけ、コミュニケーションを深める機会としている。また、外部講師により、実務中心の勉強会を行い、悩みや行き詰まりの解消をサポートしている。また、希望休や希望の有給休暇を取得出来るよう支援することや、親睦会を行い、管理者及び職員と親睦を深め、リフレッシュを図りストレス軽減に努めている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員の目標管理を行いマイチャレンジと面接制度を併用することで、管理者から問題提議と、管理者及び職員から希望を汲み取り、職員とコミュニケーションを図ることを大事に考えている。法人本部からの情報発信により、ご家族様からの温かい言葉(手紙)で喜びを共有することや、色々な事例に応じた勉強や検討が出来る仕組みを構築している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23 ○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人同席の場合は、要望や不安など聞き取りし、同席でない場合は入居前に必ず本人との面談を行い、聞き取り調査、身体状況、精神状況も確認している。その上で全職員に準備として情報を伝え、本人を受け止めやすくしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にはゆっくり話ができる時間を作り、精神的な不安を緩和できるよう助言をさせていただいている。また、制度の説明や介護保険利用についての助言なども行い、必要によっては居宅支援事業所の紹介なども行っている。		
25 ○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの方が、グループホームを知らずに相談にこられるため、グループホームがどんな施設であるかという説明から、相談にこられた方の緊急度や、介護状況をお聞きし、他施設も含めて紹介させていただいている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの入居前に同じ建物内の認知症型デイサービスで雰囲気慣れ、顔見知りの入居者やスタッフを作ることで急激な環境変化を防いでいる。また、グループホームとデイサービス相互の行き来の機会も作り合同行事なども開催し、なじみやすいよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27 ○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	24時間、衣食住を共にし、会話や触れ合いの中で、教えられることも多く、職員影響を受け、人間的に成長している。すべてを与える側という職員ではなく、共に暮らすものという意味ではほおずきではリビングパートナーという名前を使っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	入居者様に何か問題が起こった際には家族様に相談し、一緒に考え、そして一緒に答えを模索するようにしている。		
29 ○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が利用者様と家族様の間に入り、よりよい関係ができるよう情報交換や、情報共有を密に行っている。また、面会時には近況報告、担当職員より毎月のお手紙などで状況をより理解していただけるようにしている。面会が多くあるご家族様と、そうでない家族様では、入居者様の状況の把握にも差があり、そのずれが出ないよう家族様とのコミュニケーションは大切にしている。		家族と過ごせる機会を作り、より良い関係を保ってもらうため、普段の面会だけでなく、加古川の花火大会に納涼祭を催したり、もちつき大会を行なっている。今年は5周年を記念して、バス旅行を企画している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様のみならず、友人や、近隣の方との関係が継続できるよう、電話や、手紙、散歩など行なっている。	○	自治会の夏祭り、もちつき大会等声を掛けていただき参加しているが、地域行事へもっとかかわりを増やしていきたい。老人クラブや地元公民館活動にも参加できるよう働きかけたい。
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り声掛けを行ない、入居者様同士がよい関係でいれるように努めている。それによって違和感を感じさせず、安心できる雰囲気作りを作るよう心がけている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院後退居になった方については、継続してお見舞いに行き、退居後も相談があればいつでも連絡していただくようお願いしており、退居後も立ち寄ってくださる家族様もおられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の基本情報や、生活歴、入居の際の調査に基づいて日々の見守りの中で、本人の行動や、言葉、思いを記録し、個々の意向を把握するよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を集め、家族様からもこれまでの暮らしについてシートを使い提供していただいている。担当ケアマネージャーからも情報提供を頂けるようお願いしている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスにおいて、個々の入居者様についてスタッフから意見を出してもらい、全体から1人を見るようにしている。	○  まだ、ひとりひとりの過ごし方を把握しきれてない部分もあり、掘り下げる必要がある。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム内での入居者様の観察し、アセスメントを行い、問題を明らかにしながら、家族様、本人様の意向を取り入れ、個別の計画作成を行なっている。個人別にカンファレンスを行い担当スタッフ、その他のスタッフからの意見を計画作成や、変更反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族様が訪問された際に、意見を聞いたり、状態の変化があった場合には速やかに計画の見直しを行なっている。月に1回個人ごとのカンファレンスを実施している。	○  カンファレンスに家族様の参加を実現できていない現状があるので、今後のテーマとしたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診記録や、家族様との面談記録、申し送りノート(日中の入居者様の様子を記録)などを作り、それぞれの情報をスタッフ間で申し送りし、共有に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様や、家族様の状況や、希望に応じ柔軟に支援をしている。受診が難しい方の訪問歯科診療や、希望病院への通院介助等可能な範囲で行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの受け入れや、トライやるウィークの受け入れ、小学校の総合学習の受け入れなど、積極的に行っており、消防訓練も消防署立会いの下実施している。また、教育機関からの依頼もあり、「こども110番の家」として協力している。		
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用は実施していない。		
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいている地域包括センター職員との情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院がすぐ近くにあり、いつでも相談できるような関係ができています。ほとんどの方が協力医をかかりつけとして選択しておられるが、家族・本人が希望する医療機関については、家族様付き添いでの受診をいただいている。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医院以外にも気軽に電話やFAXで相談にのってくださる認知症専門医がおり、月1回は継続して受診している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>現在はグループホーム職員の中に看護師がいるため、外部の看護師との連携は無い。</p>	○	<p>今後は入居者様の重度化も問題となってくるため、訪問看護ステーションとの契約により医療連携を図ることを検討している。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の際にはサマリー(情報提供書)を作成し、入院後も病院関係者、家族様と退院に向けた情報交換を行い、家族様、本人様の不安軽減を図っている。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>受診の段階から早めの対応を心がけており、その都度、必要であれば家族様の同行もお願いしながら、状況を家族様と一緒に考え医師と今後のお話をするようにしている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に向けて、ホームでどこまで対応できるかを、契約時にお話するようにしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームの入居前は必ず本人様、家族様との面談、情報交換を行い、関係を作った上で入居いただくようにしている。また、今まで使い慣れた家具や調度品等を可能な限り持ち込んでいただき、室内に馴染みのものがある安心感の中で生活していただけるよう配慮している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人に対して敬意を払い、日々接しており、記録内容や、個人情報についても他言しないよう徹底している。また、入社時の雇用契約の際の条件ともなっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が不安そうな時に寄り添い話を聞く、その会話の中から思いや希望を聞き出しケアにつなげるなど、馴染みの関係作りを大切にしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主体が入居者様であることを考え、その人の希望を聞くようにしているが、聞ける場面、聞けない場面がある。	○	希望をどこまで聞けるか、職員の数や、体制の中で限界がある。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪を切ってほしいという希望がある場合には行きつけのお店にいけるよう支援をしている。衣類については季節に合わない場合のみ、着替えていただくが、基本的には自分で選んでもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や、調理、盛り付けなど、利用者様の出来ることは積極的に協力をしてもらっている。利用者の苦手な食べ物の場合は部分的に別メニューにするなど柔軟な対応を行なっている。茶碗や汁碗、湯飲みなどは使い慣れた馴染のものをを使うようにし、職員も同じテーブルを囲み見守り、声掛けしながら食事を楽しんでいる。		
55 ○利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様の健康状態により、本人様の望むことはすべてかなえられないが、可能な限り対応している。その実施については家族様、医師の意見も聞くようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中、夜間必要に応じ定期的にトイレ誘導を行っている。排せつパターンをつかみ、日中対応が可能な方は、布パンツにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたいといわれるタイミングで入っていただくよう心がけているが、9人が1つのお風呂を使用するため、ある程度の希望しかつ聞けない。ただ、その方がくつろげるように温度や時間、回数も注意している。		
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人の睡眠パターンを把握している。夜間に眠れない方については生活のリズムを見直したり、それでも無理な場合は入眠導入剤を使用するなどしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	積極的に得意なことはしていただき、自信に繋がるよう支援している。また、散歩や外出の機会を持って気分転換を図っている。	○	家事への参加をもっと取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内でのお金の所持については、紛失する可能性があることを家族様へ説明、了承を得た上で、希望される方には小額の1現金を管理していただいている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くの公園や、町内の散歩へ出かけたり、庭の草引きや畑で野菜作りをしている。喫茶店や外食にも月に1回は出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には個別に外食に行ったり、月に1回はお出かけを企画し、天気の良い日は散歩に行っている。希望を実現できるように行事に反映したりしている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに理解していただいた上で、利用者が電話したり、手紙のやり取りをすることが気兼ねなく出来るよう配慮している。相手先が友人の場合、内容的に同じ話の繰り返しなどがあるため、その方がどんな症状なのかもあらかじめ家族やホームがらお話している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等が気軽に訪問でき、訪問時は居心地良く過ごしていただけるような雰囲気を作っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員に対し、研修などでの周知を行っている。やむを得ず行う場合は、その根拠が明白でその理由を家族に説明し、同意を得ている。	○	新人について実施できていない部分もあるので、早急の実施したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は入居者自ら施錠する以外は、外出、外泊等の際に行うのみで、ユニット入口の鍵は原則として夜間のみ、それ以外は解放している。ただし見守りが万全の体制でない場合は施錠している。	○	見守りをするということについて管理的な面が大いにあるので、所在確認がしっかり行えたうえで、入居者様が自由を感じるような時間をもっと工夫して考えていきたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室入口には暖簾を掛けるなど、プライバシーを考慮している。日中はもちろんのこと、夜間は特に入居者様の意思を確認した上で、居室に入室してほしくない方については窓からの見守りをしている。また昼夜を通して入居者様の所在や、安全確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物の取扱いに関しては、入居の際に家族、本人了承の上預かりや、持ち帰りなど行っている。爪切りや、はさみは、本人所持されている方もおられるが、状況を見て家族に相談にしている。また危険物に関しては保管方法を定めた場所にて保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットを活用し、事故やヒヤリがあった場合はその日のうちに各ユニットで協議し、即全体へ共有できるようにしている。全体会議や、運営推進会議での報告も行い、会社全体の事故情報も共有している。マニュアルもある。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルの活用のため全職員に設置場所を周知している。消防の救急講習や、年に2回の避難訓練、消火訓練も行っている。	○	新人について実施できていない部分もあるので、早急に実施したい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理業務組織編成表があり、職員がそれぞれ緊急時の役割を担っている。消防避難訓練については消防署の協力を通じ、働きかけている。また自治会の依頼により当ホームも緊急避難場所の1つとなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族様面会の際やプラン説明の際に本人の状態や起こりうるリスクについて説明を行い、グループホームでできること、できないこともしっかりと説明している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を行い、異変に気づけばすぐにバイタル測定し、かかりつけ医や救急の対応をしている。日々の気付きの中からサインを見つけることができるようにエピソードの共有を行っている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとのケース記録に服薬情報を入れ、いつでもスタッフが知ることができるようにしている。また服薬の際は、ひとりひとり日にちと名前を確認し手から介助し、飲み終わるまで確認している。介助にはできるだけ2人の職員が関わるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者様一人一人について把握しており、排便確認している。便秘の方は医師に相談し、適度に排便できるよう薬剤でのコントロールも行っているが、基本的には散歩や、体操を中心とした運動を心がけている。食事量、水分摂取についてはチェック表にて記録している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員の声掛けにより、毎食後口腔ケアを行っている。介助については出来ることが違うため、必要に応じたケアを行うようにしている。義歯の方は就寝前に入れ歯洗浄している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量や水分摂取量は個別に記録しており、利用者の状態に応じてメニューの変更や、食事量の調整を臨機応変に行なっている。嚥下の悪い方についてはむせやすい酢や飲み込みにくいものを避けるなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、全職員が理解して予防対策をしている。食事前や外出後の手洗い、うがい、手指消毒、感染症の疑いがあれば即受診し、蔓延防止に努めている。また、職員の体調にも目を向け、マスクの着用や、調理用手袋の使用も行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんはテーブル用とキッチン用に分け、まな板も野菜用、肉用(生もの)で区別して使用しており、状況により調理用手袋を用い調理を行っている。また、毎日まな板やふきん類の漂白を行っている。前もって届く食材に関して、痛みやすそうなものは冷凍保存を行い、作り置きせず、その都度作りたての食事を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入口に手すりの追加を行い、両サイドの設置となった。玄関入口付近に花壇を作り、花を植え、掲示板の設置も行った。またホームからの情報発信もこの掲示板を使用して行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日職員と入居者が協働で掃除を行い、いごちのよい空間づくりを心がけている。またフロアの手作りカレンダーと掲示物を毎月その月に合ったものに変えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は畳スペース、ソファ、食卓とあり、好きな場所ですごせるような空間を提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際に居室の家具等は、今まで使用されていたものを持参していただくよう依頼し、利用者の好みに合わせ落ち着ける空間作りをしている。</p>	○	<p>馴染みの家具だけでなく、アルバムや、写真等も持参をお願いしている。(回想法)</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入浴介助の際に浴室との温度差が少ないように暖房をつけるなど季節ごとに対応している。掃除の時は必ず窓を開ける、また空気清浄機を設置している。冬は加湿器や、洗面台に水を張るなど、調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ほとんどの空間がバリアフリーになっており、壁に沿って手すりが設置されている。歩行不安定な入居者様用に新たに浴室、玄関前に手すりを追加し、一人でも転倒につながらないよう配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個別にゆっくりと話をする機会を設け、様々な不安や、思いを聞き、穏やかに楽しみのある生活ができるよう努めている。各入居者さまに1人担当職員を付け、より入居者様の理解を深めることができるようにしている。</p>	○	<p>日常生活の中で、家事参加をしていただく。それぞれの思いに寄り添いながら、職員の影のフォローにより、出来ることへの達成感を感じていただき、自信へとつながる支援を行なっている。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑やプランターでの野菜作りなど行っている。庭にはベンチを設置している。</p>		<p>2Fベランダは洗濯物を干すだけになっている。暖かい時はベランダで日向ぼっこでもできるよう検討したい。1Fは庭に畑があるので利用できるがまだまだ充分な活用ではない。</p>

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員の交代が多かったが、入居者様の健康面に関して、非常に安定している。協力医との関係も非常に良く、今後も更に安心していただけるホームになると思う。入居者様の生活についてはまだまだ本人様や家族様の意向を反映して、より生活感のあるホーム作りに力を入れていきたい。また、地域に向けて認知症という病気の情報発信基地になれるよう活動を今まで以上に広げていきたい。